Jaicows Newsletter
No.17 (2006.10.3 発行)

学術会議連携会員が決まる

8 月に学術会議の連携会員全員 1990 名が決定しました。ホームページの一覧表から「女性だと思われる名前」の見当をつけて勘定したところではおよそ 1 割、200 人程度ではないかと思われます。会員では女性が 20%を占めたことと比べると、今回はやや少なめとなりました。とりあえず Jaicows としては、これらの方々に加入を呼びかけていく方針ですが、皆様もお知り合いの方々に個人的に声をかけてお誘いくださいますようお願い致します。

連携会員の一覧表は　www.scj.go.jp/ja/scj/member/renkeiall.pdf　にてごらんになれます。

JAICOWS 総会報告

日　時：2006 年 3 月 20 日 13：00～14：00
場　所：専修大学 8 号館 2 階 821 教室
出席者：74 名（委任状提出者：64 名）
　会員数 143 名の過半数に達しているので、総会は成立した。

● 議　　事

協議事項

1．会則改正

・原ひろ子会長より、学術会議の新体制に伴って Jaicows 会則の 4 条組織の項に［連携会員］を位置づけることと、名誉会員を新しく設ける改正（案）が諮られ、審議の結果、承認された。新しい条文は次のとおり。

第 4 条　本会は日本学術会議第 13 期以降の、女性会員および研究連絡委員会委員（第 13 期～第 19 期）、連携会員（第 20 期～）等の女性メンバーを会員として組織する。 第 4 条の 2　名誉会員は、本会の会員であった者で、役員会が推薦し、総会の了承を得るものとする。なお、名誉会員については会費を免除し、ニュースレター等は送付するものとする。

2．役員人事　（原ひろ子会長）

・国枝タカ子氏を新役員とする人事が諮られ、審議の結果、承認された。国枝タカ子氏は、広報を担当することとなった。

・今後の新役員人事（若干名）について、役員会に一任されることが承認された。

3．事業報告・会計報告（岩井宜子役員事務局長）

1）要望書の提出（要望書「第 3 期科学技術基本計画の実施における女性科学者の活動促進のための具体的施策について」）。

2）シンポジウム後援

3）Newsletter の発行（No.16　2006 年 2 月 22 日発行）

などが審議され、承認された。

4．会計報告（岩井宜子役員事務局長）

・2005 年度会計報告　（後掲）

・馬場監査より、2004 年度会計報告の監査結果の報告があり、承認された。

5．事業計画（岩井宜子役員事務局長）

・Newsletter 発行（年 2 回）

・シンポジウム開催・後援

などの 2006 年度の事業計画が諮られ、審議の結果、承認された。（予算について後掲）

報告事項

1．浅倉むつ子役員より、日本学術会議の状況について報告があった。

・現在、日本学術会議には 42 名の女性会員が在籍

・課題別委員会に、「学術とジェンダー委員会」（委員長：江原由美子）を設置

・常設委員会に、「男女共同参画分科会」（会長：辻村みよ子）を設置

・ジェンダーに関係する学協会（3 ヶ月に一度）において、「ジェンダー学連絡協議会」（ジェンダー史学会、日本女性学会、日本ジェンダー学会、ジェンダー法学会）を設置

・シンポジウムについて（学術会議のホームページ参照）

・「学術の動向」3 月号に、ジェンダー関連を掲載

2．国枝タカ子役員より、港区広報誌のなかの「日本の学術と女性研究者―ナースリーの充実―」の報告があった。

● 2005 年度会計報告

総会で承認された 2005 年会計報告（2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日）は以下のとおりです。

1．収入の部

勘定科目	予算額	決算額	差異（△収入減）	備　考
繰越金	128,100	128,100	0	
会　費	518,400	465,000	△53,400	116 人分（81.7%）
利　子	0	1	1	
寄　付	100,000	100,000	0	World Planning より寄付
合　計	746,500	693,101	△53,399	

2．支出の部

勘定科目	予算額	決算額	差異（△支出増）	備　考
通信費	20,000	28,466	△8,466	発送費、総会はがき代、タックシール代、発送手数料等
Newsletter 印刷費 Newsletter 発送費	170,000	54,600 13,590	101,810	Newsletter No.16
行事費	50,000	30,000	20,000	講師謝金、アルバイト代
会議費	5,000	0	5,000	
学会業務委託費	420,000	420,000	0	
予備費	81,500	17,535	63,965	残高証明書発行手数料、振込手数料
合　計	746,500	564,191	182,309	
次年度繰越金		128,910		

● 2006年度予算

総会で承認された2006年度予算案は以下のとおりです。

（収入の部）　繰越金　　￥128,910-

　　会　費　　￥575,000-　（115人）

（支出の部）　通信費　　￥30,000-

　　Newsletter印刷費・発送費　￥170,000-

　　行事費　　￥50,000-

　　会議費　　￥5,000-

　　学会業務委託費　￥420,000-

　　予備費　　￥28,910-

名誉会員について

総会で承認された、規約改正（4条の2（名誉会員）を新設）に基づき、役員会では以下の方を名誉会員に推挙し、事務局が個別にご本人の承諾を得た上で総会におはかりしました。その結果以下の方々を名誉会員としました。

石井麻耶子氏、畑江敬子氏、田端光美氏、猿橋勝子氏

JAICOWS新役員について

6月19日に専修大学で役員会が開かれ、3月の総会（上記記事の2）で役員に一任されていた若干名の補充について、次の方々のご協力を得られることが決まりました。

加賀谷淳子氏　（日本女子体育大学）

西川　朱實氏　（明治薬科大学）

お二人には企画を担当いただくことになりました。

シンポジウム・報告書などの情報

Jaicowsと関連するシンポジウムや報告書について順不同でご報告します。

1．「身体・性差・ジェンダー ―生物学とジェンダー学の対話―」

日本学術会議主催公開講演会

生物学とジェンダー学、おそらく日本ではいままで交錯することのなかったであろうこの両学問の対話が、日本学術会議主催（Jaicows後援）のもと「身体・性差・ジェンダー ―生物学とジェンダー学の対話―」と題する講演会において、試みられました。本講演会は開催2週間前には参加定員に達するほど、きわめて注目度の高い講演会となりました。

講演会では、まず5人のパネリストによる講演（原ひろ子氏「男女共同参画社会の実現と学術の役割」、上野千鶴子氏「ジェンダー概念の意義と効果」、東村博子氏「女と男はどう違う？―生物学視点から―」、大村尉義氏「『性差医療の可能性』性差医療の考え方と課題―老年医学の立場から―」、井谷惠子氏「ジェンダー研究からみた体育・スポーツの可能性と課題」）が行われ、ついで6人のディスカッサント（五十嵐隆氏、加賀谷淳子氏、黒田公美氏、竹村和子氏、長谷川眞理子氏、松田昌子氏）による質疑がなされたのち、フロアーも交え討論がなされました。

さまざまなジェンダー・アイデンティティを有する者が自由かつ平等にあつかわれることこそ、「男女共同参画社会」の実現にほかならないのだというメッセージは、このような学際的対話が継続されていくことで、われわれの社会に広く認識されていくのではないでしょうか。これからも、このような対話が、活発的に、そして継続的になされることが期待されます。

（講演内容については、『学術の動向』に掲載される予定です。ぜひご参照ください。）

（Jajcowsについて色々事務局を手伝っていただいている専修大学大学院生柴田守さんにまとめていただきました。原ひろ子先生加筆）

2．Studying Women Scientists：Research Methods, Research Findings, Policies

原ひろ子（城西国際大学大学院客員教授）

2006年8月7－8日に総合研究大学院大学　葉山高等研究センター（HCAS）で、平田光司先生・Sharon Traweek先生が組織された“Studying Women Scientists: Research Methods, Research Findings, Policies”というワークショップが開催されました。女性研究者研究の諸方法とそれらのデータの保存に関しての、多角的な検討が行われました。まず7日午前には、研究方法に関する報告があり、Sharon Traweek (HCAS, UCLA) : "Oral History" ; Helena Petterson(Swedish National Institute for Gender Studies) "Ethnographies" ; Maria Ong (Civil Rights Project, Harvard) "Survey Questionnaires : Design, Circulation and Statistical Tools" ; TBA "Archival Research and Database Searches" があり、多様な接近法に関して学びました。

7日午後には、まず原子物理学者湯浅年子（1990-1980）に関する研究の現状と今後の課題が3人の報告者によって示され、具体的な討論がありました。次いで、Masako Bando (Aichi U.,

Japan Physical Society) "Influence of Women on Knowledge-making in Physics" 及び Hiroko Hara (Josai Kokusai U., SCJ) "The Science Council of Japan and Women Scientists" の報告があり、活発な質疑応答がありました。原は1940年代以降2005年までの関連年表の仮案を提示して、具体的な事例を含めて、第16期SCJ以来の動向を中心にお話しました。

私は先約のため、第1日のみの参加でした。プログラムによると、2日目の8月8日の内容は、諸機関における活動の報告であったようです。Maria Ong : "On OUPAP and NSF" ; Noriko Shiomitsu : "On Monkasho"; Akio Sugimoto : "On Ochanomizu U." ; Eiko Torikai : "On Grassroots Movement of Women Physicists" など。

その後、今後の総合研究大学院大学　葉山高等研究センター（HCAS）における作業計画などの話し合いが行われたようです。いずれ、このワークショップの報告書が公表されるようですので、ご注目下さい。HCASではデジタルな文書館（Archives）の企画もあるようで、私は期待しております。

3. インターアカデミーカウンシル（IAC）報告書「科学における女性－"Women for Science"」

日本学術会議が加入している国際学術団体であるインターアカデミーカウンシル（IAC）は、「科学における女性－"Women for Science"」と題する報告書を取りまとめ、本年6月20日に公表しました。また同報告書に対しての日本学術会議会長のコメントに関して情報提供がありましたのでご紹介します。

この報告書では、学術会議会員に占める女性の割合が一般に5%未満であるなど、科学技術分野における女性の参画が不十分であり、それを正していくために各国の学術会議は速やかな行動を取らなければならないと指摘し、それにはまず、学術会議自らが女性を力づけ、支援していく内部の運営を実施するとともに、政策決定者やその他のリーダーに働きかけてより広い変革を求めていくことが必要だとしています。

"Women for Science"の報告書（全文）

→　http://www.interacademycouncil.net/CMS/Reports/Women4Science.aspx

日本学術会議会長のコメント

（→http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/comment/060718.htmlにも掲載）

日本学術会議では、昨年10月から始まった第20期において会員の20%が女性となり、常置の「科学者委員会」の下に「男女共同参画分科会」を、また、課題別の委員会として「学術とジェンダー委員会」を設置するなど、この問題に以前から積極的に取り組んでおり、今後とも努力してまいる所存であります。さらに、国際的な学術団体や国連機関とも緊密に連携し、この問題を含め、世界的な諸課題の解決に向けて積極的に貢献してまいります。

日本学術会議会長　黒川　清

（以上、原ひろ子先生からの情報提供でした）

JAICOWSの今後取りくみ（話題提供）

6月19日の役員会では、ニュースレターの新紙面の構想に触発されて、今後取り組んでいったほうがよい課題について、意見交換がなされました。皆様のご協力やご意見を賜りたく、まだ具体的な実施にはいたっておりませんが、ここに話題提供をしておきたいと思います。

1）Jaicows会員増への働きかけ

すでに前回のニュースレターでお知らせしましたように、学術会議の女性会員は42名にものぼり、またその後選出された連携会員数も相当数に上ると考えられています。この方々にJaicowsの会員になっていただくよう働きかけを行っていきたいと考えています。ところが近年の個人情報保護の動きのなかで、連携会員の連絡先などを入手することが困難になってきています。そこで、当面は9月に開催される連携会員の説明会などでチラシを配布するなどして呼びかけることになっています。このニュースをお読みになってご協力くださる方は是非お知らせください。

2）追跡調査

これまでJaicowsが取り組んできた「科学研究費への非常勤講師の応募資格」や今年度始められた「産休後復帰支援研究費」などについて、制度はできたものの、その後の現実を追跡したほうがよいのではないか、という意見が出ています。たとえば非常勤講師が科学研究費に応募しようとしたが大学段階などで応じてもらえなかった例も報告されております。また産休についても条件が複雑すぎて該当する者が少ないのではないか、などのご意見も出て、実際どの程度の応募があり、応募出来なかった方はどこが不都合であったのかなどを集約していく必要があると考えています。

これらについて大掛かりな調査をするだけの余裕はなかなかないのですが、Jaicowsとしても取り組むために、まず、会員の皆様から実例をご報告いただけたらありがたいと思います。

JAICOWSニュースレターの新紙面について

なお、これまでのJaicowsのニュースレターは主に学術会議の報告とJaicowsの活動の報告に終始してきましたが、同じ役員会で先日の総会以来広報担当として色々考えてくださっていた国枝タカ子委員から、これまで活躍された女性研究者のインタヴュー記事を掲載するなど、より魅力的な紙面にすることについてのご提案がありました。もとよりご多忙な会員のボランティアで成り立つJaicowsですのであまり大掛かりなことはできませんが、国枝会員がインタヴューを実施してくださることを申し出られ、この号から掲載されています。今後ともお楽しみに。色々なご都合により掲載順は順不同になりますのでその点ご了承ください。

また、男女共同参画についての各大学の取り組みとか、専門職大学院の動向とか、会員が関心のありそうなテーマについてご寄稿いただくという案も出ています。「こんな記事がほしい」というようなご希望がありましたら、是非お寄せください。

女性科学者のインタビュー・リレー　〔1〕

「農村調査から地域福祉研究への45年」

田端　光美さん（社会福祉学）　日本女子大学名誉教授

1．社会調査から農村福祉へ

いまの自分をつくってきたものは何かを振り返るとき、若い時代に受けたトレーニングと指導者との出会いが大切だと思う。1951年（昭和26年）4月、日本女子大学に入学した。北海道の小さな学校から上京して社会福祉学科へ。大学と学寮、何もかにも新しい生活が始まってまもなく、卒業して東宝映画に入社した先輩、高野悦子さん（現在、岩波ホール支配人）からアルバイトに誘われた。日曜ごとに新宿、渋谷、浅草の映画館で封切り映画の観客の性別、年齢層、職業タイプなどを観察、記録する仕事だった。1 時間に10分ずつ観察し、あとの時間は映画をみてもよいので結構楽しかったが、何より地域ごとに観客層に特徴があることに気づき、大都市に興味をもった。

二年生になると非常勤講師で内閣世論室長小山栄三先生のもとで世論調査の調査票整理のアルバイトをすることになった。回答内容をコード表にしたがって分類するコーディング作業である。大学の授業でやることがなかった根気のいる仕事で、コード表に該当がないときは、1つ1つ担当者に聞きながら整理したが、後に研究者としての仕事にする上で、ずいぶん役に立った。

労働省の零細事業者調査の訪問聞き取りも手伝った。氷雨降る春の夕暮れ、小さなラーメン屋で調査依頼する女子学生に「まあ、ラーメンを一杯食べてから」と、丼を差し出してくれた中年夫婦、吾妻橋付近で住所片手に探しあぐねて、ふと倉庫の隅で傘修理する老夫婦に道を聞くと、その人が調査対象だったときの驚きなど、知らなかった社会への目が開かれた。卒業後は大学の農家生活研究所の助手に採用され、本格的な農村生活調査に取り組むことになった。

2．一番ヶ瀬康子先生との勉強会

若い時代に自分を鍛えたものは学生時代から始められた文献購読などの勉強会や、卒業後間もない頃から一番ヶ瀬康子先生が若い私達をバックアップしてくださった研究会であった。一方、農家生活研究所の総合的研究では、官庁の統計資料を利用して調査に必要な基礎資料を作成すること、現地調査には1985年頃までの日本女子大学におけるほとんどの農村調査に参加した。その過程で日本の農民、農村問題の激動する実態に接し、社会福祉の視点から最初の著書を刊行した（『日本の農村福祉』1982年）。こうした若い時代の先輩に導かれた勉強や、汗とときには涙も支えたフィールドワークで培われたものは、その後、地域福祉研究の礎石になったと思う。（著書「地域福祉論」ほか）

3．英国グラスゴウ大学で「地域福祉」の原点を学ぶ

学生時代に「地域福祉」という用語はなかった。日本女子大学社会福祉学科では、ようやく注目され始めた「地域福祉」を一番ヶ瀬先生の提案でもっとも早く教育科目に取り入れ、地域を研究していたということで担当することになった。講義を聞いたこともなく、教科書もなく、手探りで講義ノートを作った。イギリスの大学で「コミュニティーワーク」の新しい研究が始まっているのを文献で読み、念願の海外研修にグラスゴウ大学を選んだのは1982年であった。失業・貧困、高齢化、離婚、アルコール依存など社会問題が最も多い都市だったが、一年間の研修は大学内だけでなく、地域の人々もフレンドリーで、新しい出会いは多くの刺激になった。

政府機関が先進的に地域ケアを推進する地方自治体、研究機関との交流を得て、民間福祉活動、高齢者のケアマネジメント、高齢者虐待などの研究を共訳で日本に紹介し、約20年にわたる地域ケアの追跡は後に著書「イギリス地域福祉の形成と展開」として刊行した（有斐閣,2003年）

4．社会福祉研究とその実体化をめざして

研修から帰国後は日本の社会福祉改革が始まろうとしていた時期で、その面でも多忙であった。農村福祉も注目されるようになり、農水省関係だけでなく、山村振興の視点から農山漁村、とくに過疎化地域の住民福祉に関わる仕事も増えたが、若い時代のように一週間も腰を据えて住民と語り合うような調査ができないのはジレンマだった。

高齢者や障害者の在宅福祉、地域ケアについては東京都や区・市の自治体レベルでの調査から政策研究、そして具体的な運営に関するまで、住民や行政省庁、ときには大学院もともに密度の濃い議論を交すことができたのは私にとって新たなフィールドワークであった。

障害のある人や高齢者が、“住み続けたい、私の町に”と望む願いが現実になるためには、在宅福祉を狭い意味でなく、居住保障を基盤に保険、医療、教育や就労、そして社会参加などに公私協同のあり方を今なお、模索している。

学術会議の活動には、一番ヶ瀬先生が会員に就任された三期9年間は補佐として、その後の9年は社会福祉・社会保障研連の委員として協力、18年も乃木坂に通ったことになるが、「社会福祉士・介護福祉士」の資格制度化に関する意見具申をまとめた時のことがもっとも印象的である。

（インタビューは国枝タカ子、収録2006年7月28日）

（この号は、東京学芸大学の直井が係りでした。）

連絡先：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）事務局
〒101-8425　東京都千代田区神田神保町 3-8　専修大学法科大学院　岩井　宜子
Tel　03-3265-6917　　Fax　03-3265-6962
E-mail　ths0494@isc.senshu-u.ac.jp
http：//jaicows.fc2web.com/

事務センター：〒105-0001　東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル　株式会社ワールドプランニング
Tel　03-3431-3715　　Fax　03-3431-3325　　E-mail　world@med.email.ne.jp

郵便振替　口座番号　00100-8-542793